



かさおか



写真提供：笠岡市

“さよなら井笠鉄道”

「笠岡今はむかし物語」

井笠鉄道は、大正2年(1913)に岡山県南西部の笠岡と井原を結ぶ路線(井笠本線)で営業運転を開始しました。

昭和15年(1940)までに、路線は東が矢掛(矢掛支線)、西が広島県の神辺(神辺支線)まで延長され、総延長37kmと県下有数の私鉄になりました。

軽便鉄道というレールの幅が狭く小型の車両を使う鉄道で、その車両は「マツチ箱」と呼ばれ、地元の人たちに親しまれていました。

通勤・通学の手段としてはもとより、沿線で開催される縁日の参拝客、桃や柿といった特産品の輸送など、地域の観光や産業の発展にも貢献しました。

昭和20年代から30年代にかけて、年間200万人以上の乗降客を運んだ年もありましたが、昭和40年代になって自動車普及したこともあり、利用者が減少していききました。

そして、昭和42年(1967)には支線が、昭和46年(1971)には本線が廃止になり、井笠地域の「生活の足」として沿線各地を結ぶ重要な役割を果たし、およそ60年の歴史に幕を閉じました。

井戸会館では、当時のビデオ上映が出来るので開館日にお越しください。

参考文献「笠岡市ホームページ」

『笠岡地区まちづくり協議会』

事務所：笠岡市笠岡2627番地

「井戸会館」内

電話：63-5949

Fax：75-0101

E-mail：zukuri2@mx1.kcv.ne.jp

開館日：月・水・金曜日 14時～17時



○10月1日(金) 14:30～

令和3年第3回文化部会を予定

○10月6日(水) 18:30～

令和3年第3回子育て部会を予定

○10月20日(水) 14:30～

令和3年第4回くらし部会を予定

「笠岡の地名」その⑦

(三)宮地・伏越の続き

大師堂(港にあるが、埋める前、城山の磯に)龍宮大神(魚市場)真角の岩の二カ所に大師。

愛宕神社(先代岡惣平氏ら力入れる)

城山については、正保四年御改笠岡之図、元禄十四年御改笠岡湊口図、延享二年笠岡町図に島として書かれてある。昔は高松の城山で廃城後、里人は古城山(吸江山)と称すといひ、応神山と連なっていたが、伏越との間を掘り下げたともいう。

地福寺で宝暦年間、山くずれ(津波)があったといわれるゆえ、それによって地続きになったのではあるまいか。頂上に城跡は何もないが、底見せぬ池から伏越側へ昔、流れていた所を「おとわの滝」といった。お夏が滝(安政五年、同笑舎好笑の小説)法華塔など略す。

城山(稲富)稲荷=永禄年代、村上掃部之介、城内の鎮守として伏見より勧請のいい伝え、その井戸は途中より抜け穴という◇花津女稲荷◇六稲荷◇五社大明神◇高倉稲荷◇地蔵(文政三年)

◇荒神社(伏越)恵美須神社。下に観音堂。観音鼻の龍観音いまなし。◎山之下に高籠宮(享保の記録)◇恵美須神社◇猿田彦大神◇巖島神社◇聖軍大神など。

そのほか石屋不動(古城山不動院)観音堂(休石の後)頂上に成羽大明神、雲碩庵は住家、住吉神社(金刀比羅宮)いまはなし。

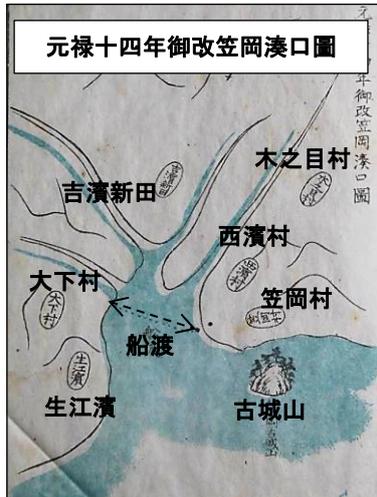
住吉町の名のおこり、住吉神社については文化二年の記録、同五年の町図記載より古いことはわからない。従って末(ヒツジの方向=ほぼ南南西という意味)新田ができたのは古地図からみて、延享以後というほかない。明治頃から土手があり、綿が植えてあった。オニリキという家がぽつんとあった。

◇金毘羅宮(東浜のは前述の城山からもってきた)

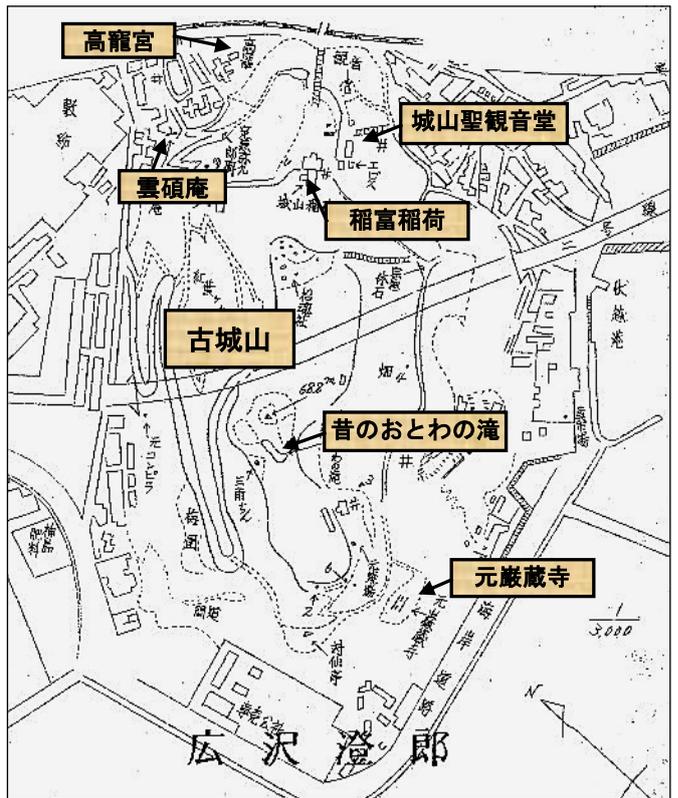
◇稲荷。

◎東浜(力石には嘉永七年、力士大湊彌九郎、世話人大浜富吉) ~次号に続く~

【資料提供】笠岡史談「笠岡の地名」広沢澄郎氏



参考文献: 吉備國史 威徳寺蔵



「ひまわりハウス」って、ご存知ですか？

笠岡小PTA

子ども達の安全確保のため、学区内の事業所や一般家庭のご理解を頂いて、平成9年度からこども110番の家『ひまわりハウス』の設置をお願いしており、令和3年度は42箇所の『ひまわりハウス』が登録され、登下校や日常生活の中で子ども達の安全確保にご協力を頂いております。

「こども110番の家」とは、子どもが登下校時などに「不審者からの声かけ、ちかん、つきまとい行為」等の被害を受けて身の危険を感じたときに、避難場所として駆け込み、住民が一時的に保護して警察に通報(110番)するしくみをいいます。危険とは、犯罪に限らず、いじめや自然災害による被害も含まれます。

編集後記

お祭りや運動会のシーズンですが、新型コロナの感染拡大防止のため自粛や中止になり、明るい話題が少なくなりました。せめて秋の味覚をたくさん味わって心身をリフレッシュしましょう。

I・M

